

令和4年10月25日

東京都立新宿高等学校 進路指導部

- 中間考査 終了!
- 大学入試共通テストについて/願書について
- 科目選択の考え方
- 11月8・9日は模試です

## 諦めなくていい

数学科 角田 玲奈

私の夢は、「教師になること」でした。

幼稚園児のときは幼稚園の先生、小学生のときは小学校の先生、中学生のときは英語の教師、高校以降は高校の教師になりたいと思っていたので、夢が叶ってこれまで色々な学校に勤務し、新宿高校の生徒の皆さんに出会えたことは本当に幸せなことだと思っています。

しかし、この記事は「夢に向かって一直線! 私って幸せ!」という成功談ではありませんので、笑って読んでいただけると嬉しいです。

私は中学時代に「とある教科」が極端にできなく、高校入試では第一、二希望は叶わずに第三希望の高校に進学しました。失敗の原因である「とある教科」は、なぜか他の教科と比べると「できる・できない」が目立つ気がして、中学時代は惨めで悔しい思いをしました。これは、私の人生における三大挫折の1つです。「もう2度と惨めな思いはしたくない。」との思いから「とある教科」と真剣に向き合い、その結果、高1の夏には『「とある教科」生きていきたい。』と心を決めました。当時、極端にできなかったことを知っている両親からは、「気でも狂ったのか。」と反対されましたが、以来、この決心は現在に至るまで一度も揺らぐことなく変わっていません。

その後、大学受験も第一希望は叶わず、公立高校の臨時教員や私立学校の教員をしながら、教員採用試験を複数回受験し東京都の教員になりました。

情けない人生を晒していますが、私は「もしあの時、第一希望が受かっていたら…」ということは余り考えませんでした。置かれた環境でしか得られない「良さ」があったからです。高校時代も先生方や友人から多くのことを学び、部活も水泳部に全力を注ぎました。不思議と第一希望でない環境にも感謝できるものです。何より現在こうして新宿高校の生徒の皆さんの挨拶や笑顔から元気をもらっているのも、自分自身の多くの失敗の連続の上にあるからです。

新宿高校のような進学校の生徒でなかった私にとっての夢と、皆さんにとっての夢とを同列に語ることはできません。私の経験から皆さんにお伝えできることがあるとすれば、第一希望は叶わなかったけど、回り道もして時間もかかってしまったけど、「夢は諦めなくていい」ということです。夢に限らず本当にやってみたいこと、続けてみたいことは可能な範囲で「諦めなくていい」と思うのです。

既に夢をもっている人もいれば、これから夢を見つけるために今できることを努力している人もいます。進路について悩んでいたりと、考えなくなかったりする時もあることでしょう。私も結果が振るわない度に夢が遠のいていくような焦りから、「やっぱり諦めた方がいいのかもしれない。」「別の道を探そうかな。」などと不安を感じたり、落ち込んだり悩んだりしました。

未来へ進むことへの希望も尽きませんが、保証がないからこそその不安も生きていく限り続くので、一休みしたくなることもあります。苦しい状況を一人で乗り越えていくことも大切ですが、時には皆さんの味方である家族や仲間、先生に声をかけて一休みすることもお勧めします。

「諦めなくていい」ので、自分なりの歩幅で1歩ずつ未来へ向かって進んでいきましょう!

## ○中間考査 終了！

先週、中間考査が行われました。主体的かつ計画的に勉強できたでしょうか。今週から早速答案が返ってきます。自分の学習状況を客観的に見直す機会にしていきましょう。

1・2年生にとっては、学習習慣を確立し、授業や課題への日常の取り組みをより質の高いものにしていく工夫が大切です。3年生は受験勉強が本格化している中での考査となりました。授業と受験とは別物ではありません。考査の振り返りを丁寧に行い、考査でミスした箇所は受験では絶対にミスしないという意識が重要です。

## ○大学入学共通テストについて

9月末に3年生の大学入学共通テスト志願票を発送し、大学入試センターから「確認はがき」も届いています。

担任の先生から「確認はがき」を渡されたら、氏名や住所、登録教科、受験科目数などを、志願票のコピーと照らし合わせて確認してください。訂正する場合は学校で一括して大学入試センターに至急「訂正届」を出さなければなりません。日程に余裕がないので、すみやかに確認しましょう。万が一、訂正が必要な場合は、10月26日（水）までに担任の先生をとおして申し出てください。問題がなければそのまま「確認はがき」を保管しておいてください。「確認はがき」に限らず、受験のための入金や出願書類送付の際の受領証など、すべての書類については、受験が完了するまで紛失することのないよう、各自しっかり保管しておいてください。

## ○大学の願書について

数年前までは、主な私立大学の入学願書を学校で取り寄せて校内で配布していましたが、今ではほとんどの私大が Web 出願方式に切り替えています。各大学の HP に出願の方法が詳しく載っていますので、受験を考えている大学については早めにチェックしてください。

一方、国公立大学では Web 出願と従来通りの紙の願書が混在しています。HP で確認のうえ、願書は各自で入手してください。願書の取り寄せについてはすでに配布している「テレメール願書請求カタログ」などを利用するとよいでしょう。第一志望の大学だけではなく、大学入学共通テストの結果次第で受験する可能性のある大学の願書はすべて、必ず事前に入手しておきましょう。国公立大学への出願は、後期日程も前期日程と同じスケジュールです。共通テストの自己採点から出願開始までは1週間ほどしかありません。前期だけではなく後期日程まで視野に入れて、願書の準備をしておく必要があります。

## ○受験に関するスケジュール管理について

3年生の中には、いよいよ受験に向けた出願準備をしている人もいるかと思います。校内でも、担任の先生との面談や、過去問題や書類等の添削指導などを受ける3年生の姿が見られるようになってきました。

ここで重々注意してほしいことが、〈スケジュール管理〉です。出願締め切りや受験日はもちろん、書類の郵送は「消印有効」なのか「必着」なのか等々。細かい箇所まで自分で把握し準備することは当然ですが、そのスケジュールの遂行には、保護者の方や担任の先生、経営企画室の方など、さまざまな方の作業が必要となります。つまり、自分ひとりのスケジュールだけで準備を進めることはできないということです。まずは、保護者の方や担任の先生と細かい打ち合わせをしっかりと行ってください。また、その後の進捗についても逐一報告するように心がけましょう。

どんなに受験勉強を頑張っても、受験に至るまでがバタバタと慌ただしくは落ち着いて力を発揮できませんし、出願でミスして受験できないという最悪の事態もあり得ます。十分注意してください。

## ○科目選択の考え方

2年生は、次年度の科目選択を決定する時期になっています。

科目を選ぶ際の一つの基準が大学入試の受験科目です。自分の志望する大学の入試科目を調べ、それに対応できる科目選択をしましょう。河合塾の「栄冠めざして vol. 2」を全員に配布しました。そこにすべての大学の受験科目が載っていますので参考してください。ただし、これは現3年生の入試の科目です。一年後、あるいは二年後に科目が変更になる可能性がありますという事も覚えておきましょう。

そこで次の話になるのですが、入試科目だけを意識したぎりぎりの選択をするのではなく、余裕をもった選択をしてほしいと思っています。そもそも皆さんは受験生である前に高校生であり、将来、社会人として生きていくうえで必要な知識を幅広く学ぶ必要があります。高校生であっても18歳は成人です。社会のさまざまなことに関心を持ち、食欲に学ぶ姿勢を大切にしましょう。好奇心旺盛な学びの姿勢は、巡りめぐって大学受験にも影響してきます。これからの大学入試では既成の教科の垣根を越えた教科横断的な発想を必要とする問題が増えていきます。分野の異なる複数の資料を関連づけて読み解く能力は、幅広い知識と柔軟な思考力があってこそ可能になります。

## 先輩からの言葉

## 人生は紆余曲折

西洋アンティーク鑑定検定試験協会認定アンティーク・スペシャリスト  
元川崎市市民ミュージアム学芸員 30回生 中山 久美子

私は現在、西洋アンティーク（骨董）について自分自身も勉強するかたわら、知識を普及する仕事に携わっています。が、かつては川崎市市民ミュージアムという博物館で美術の学芸員をしていました。学芸員とは、館の所蔵品などについて調査や研究をする、適切な保存環境を整える、展覧会やイベントを企画する、といった業務に携わる専門職です。しかし学芸員になるまでには曲折があり、現在に至るまでも曲折がありました。目標を定めてまっしぐら…という生き方にはほど遠い私ですが、これまでを

## ○11月8・9日は模試です

1年生と2年生は9日（水）に進研模試を、3年生は8・9日（火・水）両日で駿台ベネッセマーク模試を受験します。どの学年の模試も、自身の学力を正確に把握する上で重要な模試です。前回の模試の結果を踏まえて対策を講じましょう。

特に1年生は初見の問題を解く経験がまだ少ないですが、不安になることはありません。模試では、毎日の授業で蓄えてきた知識や学力を応用していく力が問われます。授業の振り返りをしっかりと行い、前回の模試の反省を今一度思い返しておいてください。

### 【今後の予定】

- 実力テスト（3年） 11/8（火）午後
- 実力テスト（1～3年） 11/9（水）
- 実力テスト（3年） 11/20（日）



振り返ってみます。

学芸員という職業を知ったのは高校時代のことです。元々美術展に行くのが好きだったので、展覧会を企画する仕事に関心があったのですが、美術史を学べる大学の入試に失敗してしまったことから、学芸員になることはほぼ諦めてしまいました。入学した大学ではフランス文学を専攻し、学芸員の資格も取得はしましたが、卒業後は事務の仕事をしていました。しかし当時は、これといった特技もない女性が長く仕事を続けるのは難しい時代でした。その時ようやく、男女の別なく仕事をしていくためには専門職に就くしかないと思い至ったのです。遅ればせながら大学院で美術史を学ぶことにし、幸い受験に合格しました。その後修士課程を経て、何とか就職することができました。

憧れの職業ではありましたが、仕事となれば自分の好きなことばかりできるわけではありません。専門外の分野を必死に勉強しながら、展覧会を企画したり解説の原稿を書いたり、自転車操業のような状態でした。それでも知識が増えれば視野も広がり、その結果作品の見方が深まるなど、手応えを感じられる充実した毎日でした。

ところが結婚して子どもが生まれると、あまりの忙しさに身動きがとれなくなり、退職せざるを得なくなっていました。その頃は、仕事を辞めれば自分の研究の時間もとれると期待もあったのですが、なかなか思うにまかせません。挫折感でしばらく悶々とした時期が続きました。

転機が訪れたのは、非常勤講師としてある大学で博物館実習を担当していた時のことです。これは学芸員の資格をとるための科目の一つで、資料の扱い方などを実地で学ぶというものです。この大学には、ヨーロッパの古いドレスや工芸品などの素晴らしいコレクションがあり、そうした資料を実際に使って展示を構成するのが授業の中心でした。展示をするには、資料が作られた年代や地域、用途などがわかっていなければなりません。ところが、たとえば美術作品ならば大体の時代や国を推測することができるのに、ドレスや工芸品の場合は何を手掛かりに判断すればいいのか見当がつかなかったのです。勉強しようにもどこから手をつけていいのかわからず困っていた時、あるカルチャーセンターで「西洋アンティーク入門」という講座が開講されることを知りました。古い工芸品について学ぶならこれだ！と閃き受講した結果、アンティークの面白さにはまってしまい、現在に至ることとなりました。

アンティークと一口に言っても、家具や陶磁器、ガラス、銀器など分野は多岐にわたります。それぞれの歴史や技法について知るべきことがたくさんあり、勉強すればするほど世界が広がる気がします。高校時代は、こんな将来が待っているとは全く想像していませんでした。しかし振り返れば、過去の経験のすべてがつながって現在の自分があります。ですから、もし今、自分が何をしたいのか、何ができるのかわからない、目標はあるけれど実現できるか自信がない、と迷いや悩みの中にいる人には、こう申し上げたいです。歩み始めれば何とかなる、その時々ですべきことに取り組んでいけば、道は開けるよ、と。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)